サッカーゴール等の転倒事故防止について

2019年6月

町田市議会議員 矢口

平成29年度スポーツ庁委託事業
学校における体育活動での事故防止対策推進事業

ゴール等の転倒による事故防止対策について

平成29年度スポーツ庁委託業務
学校における体育活動での事故防止対策推進事業
ゴール等の転倒による事故防止対策について　より

表1　年度別／要因別集計表（平成25年度--平成27年度）

（件）

要因別／年度別	1 運搬中落とす、はさむ	2 サッカー以外でぶつかった	3 サッカー中ぶつかった	4 ネット	5 ぶら下がって落ちた	6 風以外で倒れた	7 風で倒れた	8 ぶら下がって倒れた	9 ワイヤー	10 その他	合計
平成25年度	362	273	199	249	82	31	39	26	13	9	1,283 (33.8%)
平成26年度	305	245	278	239	97	33	12	22	6	9	1,246 (32.9%)
平成27年度	322	264	304	210	90	26	22	12	3	9	1,262 (33.3%)
合計	989 (26.1%)	782 (20.6%)	781 (20.6%)	698 (18.4%)	269 (7.1%)	90 (2.4%)	73 (1.9%)	60 (1.6%)	22 (0.6%)	27 (0.7%)	3,791

上記表の詳細

2:鬼ごっこ中、ドッジボール中など
4:ネットを踏んで転んだ、ネットに足が絡まって転んだなど
6:ゆらした、ネットを引っ張った、寄りかかっていたなど
9:ワイヤーに首がかかったなど
10:支柱が折れたなど

表2　学校種別／要因別集計表（平成25年度--平成27年度）

（件）

要因別／学校種別	1 運搬中落とす、はさむ	2 サッカー以外でぶつかった	3 サッカー中ぶつかった	4 ネット	5 ぶら下がって落ちた	6 風以外で倒れた	7 風で倒れた	8 ぶら下がって倒れた	9 ワイヤー	10 その他	合計
小学校	95	538	424	427	115	37	13	9	8	14	1,680 (44.3%)
中学校	739	184	249	195	110	40	46	27	8	11	1,609 (42.4%)
高等学校	152	42	102	62	36	5	14	11	6	2	432 (11.4%)
幼稚園・幼連・保育所等	3	18	6	14	8	8	0	13	0	0	70 (1.9%)
	989 (26.1%)	782 (20.6%)	781 (20.6%)	698 (18.4%)	269 (7.1%)	90 (2.4%)	73 (1.9%)	60 (1.6%)	22 (0.6%)	27 (0.7%)	3,791

※高等専門学校は高等学校に含む。

ゴールが固定されていれば防げたと考えられる事故が3年間で223件。

文科省からは2013年から固定をするよう通知しているが、事故が頻繁に起きている。

主な事故例①

事故の約半年後に同じ学校でまた事故…。高校3年生が死亡。

- 事故の約半年前である平成24年10月にサッカーゴール転倒により生徒一名が指を負傷。
- その後、使用時に転倒防止策を講じていた。
- しかし、ゴールの移動が頻繁になり転倒防止策が疎かになっていた。
- 当日も転倒防止策が講じられていなかった。

主な事故例②

杭やロープなどの固定道具はあるが実施されず。小学4年生が死亡。

- 2013年に、文科省からサッカーゴールなどの固定について通知がなされているが、その後である2017年に起こった事故である。
- 杭やロープ等のゴール固定の道具は所有していた。つまり、固定の必要性は認識があった。
- 事故当時、固定するための杭は現場に無く、事故後に校庭の物置で見つかる。
- ロープも切れていた。いつ破損したかは記録が無く不明である。

重大な事故が頻発し、
文科省からの通知もありながら固定がなされない理由とは

- サッカーやハンドボール専用のグラウンドを所有しない学校では体育の授業や部活動の時に頻繁にゴールの移動をしなければならない。
- ゴールの移動だけでも大変なのに、杭を抜きまた打ち付けると言う作業が教員の負担にもなっている。

その結果

事故が起こっても通知が来ても教育委員会から注意喚起があっても

固定しない学校がいまだに存在する。

そこで提案

過去の事故などを見てわかる事→通知を出しても、注意喚起をしても固定をしない学校がある

ではどのような対策が事故防止に有効なのか

- サッカー用のグラウンドやハンドボール専用のグラウンドが無い学校を調査。
- 体育の授業の時、部活動の時、行事の時など、いつサッカーゴールを移動しているか調査。

- 移動頻度が高く固定が負担となる学校には、短時間で固定ができる固定具を導入。
- 空気で膨らませるタイプのゴールなど、倒れても怪我をしないゴールなどの導入。

まずは上の二点について調査が必要。

調査結果に応じて、下の二点について検討を進める。